

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 山形虹の会 グループホームかけはし
(ユニット名)	グループホームかけはし 3丁目
所在地 (県・市町村名)	山形県 鶴岡市 民田 代家田 100-1
記入者名 (管理者)	結城 弥生
記入日	平成 19年 6月 29日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	開所当時より「グループホームかけはし」と理念を作り上げている。入居者に対しての理念、職員の理念各4項目づつの内容になっている。	○	これからも、常に理念を意識しケアに取り組んでいきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	大判用紙に記入し、玄関、事務所内の目に留まる場所へ掲示し職員意識しながら日々取り組んでいる。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	理念を玄関に大きく掲示し、御家族や地域の方が来設時見えるようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	毎年、夏祭り、忘年会を開催し交流を深めている。サークル活動で地域の神社まで散歩等行っている。	○	個人活動の中で地域の飲食店への買い物や、個々の理容などもっと多く利用し交流を深めていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	毎年、夏祭り、忘年会行事の開催時には地域の保育園児やボランティアの協力を得ながら交流に努めている。	○	サークル活動等で地域の神社へ散歩等行っている。今後は、老人クラブや保育園への訪問、地域行事への参加等地域へ出て行く機会を増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の在宅高齢者へ訪問。「高齢者実態調査」行なった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の自己評価を活用し業務の見直しや職員の自己啓発につなげている。	○	自己評価表を利用し、何が求められているのか定期的に学習していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催している。GHの全体会議で報告している。	○	会議参加者をもう少し増やし、地域の情報を頂きこれまでに以上に地域へ出て行く機会を設けたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	見守り支援の実習を受け入れている。市の介護相談員来設している。自治体キャラバンへ参加している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定期的に行なわれる学習会にて、権利擁護等について関係職種の話や報告を聞き学習行なっている。	○	権利擁護や制度のこと等詳しい部分あまりわからない事が多い為学習会や研修等へ参加し学習していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な学習会や研修参加者の伝達講習を行ない学習している。入浴、トイレ誘導時に打撲跡等ないかボディーチェック行っており見逃さないようにしている。	○	今後も学習会を定期的に行って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に訪問しGHの説明を行っている。ご本人、ご家族の不安や疑問も聞き取りし理解・納得していただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に2～3回程市の介護相談員が訪問。入居者より話を聞いたり、生活の様子を見に来られている。職員も日々の業務の中で困りごと等聞き取り行っている。	○ これまで同様寄せられた不満や要望に応じて行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	お便りを毎月発行しており、行事での様子、日々の生活の様子など近況を報告している。面会時や定期面談時にも報告行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会時に話をしたり、定期面談時に話を聞いている。苦情の窓口となっている職員もフロアに掲示されている。	○ これまで同様寄せられた不満や要望に応じて行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH全体会議やサービス担当者会議、各ユニットの責任者が集まり運営会議行い意見交換行っている。個人面談も年1回、必要時は随時行われており意見等聞き取り行っている。	○ 職員の意見やアイディアもよく聞き業務に反映させて行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務作成時、勤務希望提出している。必要時は入居者の個々の希望に応じ勤務調整できている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむをえず移動する場合は引継ぎをきちんと行っている。入居者への報告、挨拶行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修や併設する老健での学集会やGHの全体会議でテーマを決め学習している。</p>	○	これまでと同じく、法人内の学習会参加や会議での学習をテーマを決め職員のレベルアップを図って行きたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>山形県GH連絡協議会の参加と交換実習等を行っている。</p>	○	交流の場へこれまで以上に参加し情報交換して行きたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>昼の休憩室があり昼休みはそこで休憩できている。個々で好きな活動へ参加しストレス発散している。</p>	○	職員のストレス解消や仕事上の悩み等の聞き取りを行って行きたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>GHの全体会議にて勉強会や受け持ちの担当者からの事例検討、在宅シミュレーションを行い学習行っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用の相談を受けた後訪問。GHの説明と、ご本人、ご家族の不安や疑問も聞き取りを行っている。すぐに入居できない場合でも定期的に連絡し本人やご家族の状況を把握するように努めている。希望があればGHの見学もして頂いている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用の相談を受けた後訪問。GHの説明と、ご本人、ご家族の不安や疑問も聞き取りを行っている。すぐに入居できない場合でも定期的に連絡し本人やご家族の状況を把握するように努めている。希望があればGHの見学もして頂いている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHの役割を説明し、家族の要望と照らし合わせ必要に応じて他のサービスの紹介を行なっている。	○	併設している老健の利用も含め老健の相談員等へ相談行なっている。
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方にもできる事をして頂いたり料理、畑、裁縫等昔の知恵、季節の伝統を聞いたりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族には、面会に来ていただくよう説明、呼びかけしている。面会時は、リビング、自室などでお茶等飲みながらゆっくり過ごされている。また本人の生活状況を伝えたり、職員が聞きたい事があれば聞き取り行なっている。家族参加の行事お知らせも行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	GHのお便りで近況の報告をしている。又遠方のご家族とは電話や手紙などで随時連絡を取り合っている。	○	今後も、面会や行事への参加等呼びかけ、少しでも多く家族と関われるきかいを増やしたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には自宅で使用していた家具などを持ち込み、布団、茶碗、箸なども持ってきて頂いている。行きつけの美容院の利用も続けている。	○	馴染みの美容院等の利用を継続していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	家事など分担で行い、食堂にて皆で食事をしている。入居者同士集まると自然に歌を唄ったり、踊ったりしている。職員もその場を盛り上げ楽しんでいる。	○	これまでどおり、今後も楽しく生活していただけるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時、いつでも相談を受け付ける旨を説明している。又入院した場合は、入居者、職員がお見舞いに行ったりしている。併設老健へ移られた方もクラブ活動等で交流している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に本人やご家族より聞き取り行っている。	○	本人の希望に沿った支援を今後も続けていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族より生活歴や趣味、習慣等の聞き取り行っている。	○	在宅時の生活をできるだけ継続して頂けるよう、聞き取り行なった生活歴を今後も活用していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	役割活動や排泄のアセスメントを行い、その都度状況を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向を聞きサービス担当者会議にて話し合いを行っている。本人の意思を大切にし、その人らしい暮らしが継続できるよう介護計画を作成している。	○	今後も本人、家族、GH職員、必要時は他職種と連携しより良い介護計画を提供していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月行われているサービス担当者会議にて介護計画の変更が必要かなど討議し、必要であればご家族や関係者と相談行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート、申し送りや日々の様子をカルテに記録する事で職員間での情報を共有している。介護計画のチェック行うことで介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	必要に応じてボランティアの協力をお願いしたり、個人の要望に合わせて図書館や美容院へ出かけている。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	定期的に地域の床屋さんに来て頂いている。月に2~3回程、介護相談員が来談されている。市のオムツ支給を利用している。	○	保険外のサービスでよく判らない事多い為、情報を集めたり、勉強会等実施していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	金銭的な問題を抱えている利用者に社会福祉協議会より、権利擁護の資料を頂き情報提供行なった。	○	状況に応じ包括支援センター等に相談行なって行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院へ定期的に受診している。本人、御家族の希望で掛かりつけの眼科の女真も行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に主治医へ受診、本人もしくは職員が日ごろの様子を報告している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設老健の看護師長へ24時間連絡が取れるようになっている。必要に応じ状態を見ていただいたり報告・相談し入居者の健康管理に勤めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、病院や御家族と連絡を取り、情報交換を行い、看護方針や退院時期を確認している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、ご家族の意向確認している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今のところ「看取り」は行っていないが主治医と相談しながら、できるだけ長くGHで暮らせるように支援している。入院、加療のタイミングについて家族、主治医と相談している。	○	今後、「見取り」の事についても検討していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時は、身体状況、生活状況、趣味、習慣等の情報提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーが確保できるように配慮している。本人の自尊心を傷つけないような言葉かけに気をつけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	分かりやすい言葉で説明し行事、食事、レク等自己決定できるように本人へ希望を聞いている。	○ 業務忙しいときでも入居者のペースに合わせゆつくりと関り、本人の自己決定を大切にしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を個人希望に沿って支援するよう努めているが、本人が決定できない事は職員が手助けをしている。	○ 今後も調査した生活歴を活かしその人らしい生活を送れるよう支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人とご家族の希望を聞きそれに沿って、馴染みの美容院を利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれができる事を役割分担し職員と一緒に食事の準備、片付けをしている。そろって食事を取り、味や好きな物などを聞きながら楽しく食事している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好きなものを買物し、常時食べれるように配慮している。お酒、タバコも希望があれば対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりのアセスメントを行い、排泄パターンの把握しその方に合った時間などに声がけ、誘導行っている。下剤の量や服用時間なども主治医や看護師に相談している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴できるようにしているが本人の希望があれば随時対応している。拒否があった場合も無理強いせず様子を見ている。マンツーマン対応の入浴の為、職員と会話しながら楽しんでゆっくり入浴していただいている。	○	寝る前や夜に入浴したいと希望する入居者への対応が難しい、今後希望に応えられるよう検討したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活リズムを考慮し、居室や居間で安心して休息、睡眠できるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を聞き取り、職歴を活かした役割活動、趣味活動、サークル活動を行い気分転換できるように努めている。	○	今後も調査した生活歴を活かしその人らしい生活を送れるよう支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて、ご家族に相談、承諾を得てから所持して頂いている。買い物時など好きなお菓子など買っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて散歩、買い物、ドライブ図書館などに外出を支援している。	○	今後も定期的に図書館の利用を行っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1回入居者の希望も取り入れながら外出行事を実施している。家族参加の行事もあり参加の呼びかけ行っている。	○	継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて気軽に電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも家族、知人、友人が訪問できるよう支援している。面会時は主に居室にて過ごして頂き交流を深めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GH全体会議にて勉強会実施されており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	法人の「身体拘束はしない」という方針に沿って今後も身体拘束はしない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は施錠などせず安全に過ごせるよう見守り行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアーに職員1名必ず居るようにしプライバシーに配慮しながら、所在や安否の確認行っている。夜間は定時での見回り行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家庭と同様に洗剤・包丁等を取り扱っている。危険を予測した場合は保管方法を決め職員間で申し送りし統一した対応で安全確保している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやり・はっと報告書を全体会議で話し合い再発防止に努めている。マニュアルを作成し事故防止に努めている。入居者の顔写真入りのリストの活用、マニュアルに沿って行動できるようにしている。	○	今後も会議等で事故報告や原因を理解し事故防止に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	GH全体会議、法人の学習会を行なっている。マニュアル作成しそれに沿って行動するようになっていく。急変時の対応として隣接する老健の看護師長と24時間連絡が取れるようになっていく。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署の協力を得ながら訓練行なっている。火災、災害対策の研修会へ参加し、参加した職員から会議などで報告があり学習している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時や必要に応じて入居者に起りうるリスク等を説明し、理解して頂くようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に異常の早期発見に努め気づいた時には看護師長、管理者、主任へ速やかに報告・相談し指示を仰いでいる。職員同士でも申し送り情報共有している。入浴時やトイレ誘導時にボディーチェックを行い異常があれば報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示、処方箋等を確認し禁止食品がある場合などは掲示している。薬の変更、注意事項等がある場合は、職員間確実に伝わるよう口頭での申し送り、申し送りノートを活用している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘について全体会議で学習会を行なっている。便秘予防で起床時の冷水の摂取、軽体操の実施、献立に野菜を多めに使用するなどして取り組んでいる。必要時医師への相談も行なっている。	○	水分摂取や食事に気をつけ便秘予防に努めていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全体会議で学習行っている。毎食後の口腔ケア、義歯洗浄している。個人の能力に合わせ介助も行っている。就寝前に洗浄剤へ義歯を浸け洗浄している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は利用者の希望も聞き、バランスも考えて職員が作成している。起床時、毎食時、10時、15時、入浴後などにお茶やジュース、スポーツドリンク、ゼリーなど用意し本人の好みに合わせ水分摂取していただいている。嚥下状態に合わせた食事形態での提供も行っている。	○	水分量不足しないようチェック行なっていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いはマニュアル通りスタンダードプリコーションに基き実施している。感染対策委員会による手洗いアンケートを定期的の実施し、実践できているか確認している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為6～9月の間は、白和え・刺身・半熟卵を控えている。賞味期限のチェックも行っている。ふきん、まな板は毎夕漂白剤に浸け消毒行っている。	○	食中毒が増える時期に、GHの目標にも食中毒の予防を挙げており、食材管理等に気をつけて行きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にプランター、ベンチを設置し使用しやすく、親しみやすい環境整備に努めている。スロープもあり車椅子なども出入りしやすい環境になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や毎月の手工芸として取り組んだ入居者の作品を展示している。	○	今後も、入居者より書いていただいた習字や手工芸を居間等に飾り、居心地よく明るい環境にしていきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や居間等好きなどころでの昼寝されている。気の合った利用者同士でソファーや畳に座りテレビを見たり会話を楽しんでいる。また自分の居室へ気の合った方を招き一緒に過ごされている事もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた馴染みの家具等を持ち込み、本人が居心地よく、できるだけ自宅での生活が継続されるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冬場は時間を決め換気を行い温度、湿度もチェックしている。夏場や臭気が気になる場合はその都度換気している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、お風呂場に手すりを設置。各入り口も段差が無く安全、自立に配慮している。居室入り口に表札を掛け自室も分かりやすくしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口に低めに表札を掛け自室が分かりやすいようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑があり野菜等植え入居者と職員が作業行っている。フリースペースもありいつでも気軽に利用できるようテーブル、イスを設置している。花への水やりもして頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

4つのサークル活動を実施しそれぞれ好きな活動に参加している。個人の希望で外出したりしている。